

ホール・イベントスペース計画

ホールやイベントスペースを計画する時の、考え方をまとめました。

ホールやイベントスペースを計画する場合、使用目的を決め、方向性を探る必要があります。その内容によって、投資計画に影響を与えます。

- ・貸出しホールにするかどうか
- ・収容人数は？
- ・客席形式は？
- ・演目は？（多目的の場合、最大スペックに対応する必要がある）
- ・興行場法適用は？

◇ホールへのアクセス

1Fに、ホールエントランス機能を持たせる

ホールに来られるお客様が、自動的に1Fに滞留することにより、にぎわいを生む

1Fにカフェスタンド、物販施設などの出店が望ましい。

1Fから2Fへは、エスカレーターの設定がベストであるが、設置面積と費用の関係で、階段(避難にも使える)をメイン動線とするが、車椅子や老人のための、小型エレベータの設置(出来れば2機)の設置が必要となる。

(1F～2Fアクセスなので、機械式小型エレベータが良い)

◇イメージ

天井高がホールの居心地に与える影響は大きい。

ステージの上部を含み、客席の主要部分も、吹抜け構造を実現したい。

ホール内吹抜け上部分に客席など設置する場合、竪穴区画となり、防煙対策(シャッターなど)が必要となる。

(事前に、避難安全検証の申請を行い適用受ける場合は別、費用と手間がかかる)

◇収容人数

ホール収容人数が900～1000以上あると、主催者は採算が取れやすい。

(避難などの経路を十分に確保する必要がある。)

◇客席形式

平土間：展示会などにも使える。

セミナー：平土間に長机といすを設置

シアター：後方の客席は、階段式であることが望ましい。※天井高が必要。

平土間の応用として

スタンディング：若者を中心としたイベントで多く用いられる。

椅子に比べ多く入場させることが可能ですが、収容人数の制限をかけられる場合が多い。)

◇ステージ

想定する演目により、ステージの強度など考慮する必要がある。

仮設式、折りたたみ式ステージ

収納場所、設置スタッフ、ステージ上部が完全に平らにならないなど、平土間でのデメリットが多いが、

ステージを使用しないイベントの時、広く使える。

音楽イベントに誘致をメインに考える場合は、不向き。

固定式ステージ

ステージ下部分を、収納として考えるなど、工夫が出来る。

◇荷重の調査

建物荷重を調査し、補強できるのか確認する必要がある。

ステージ部分

ステージ上機材、吊り物機材の荷重

客席部分

お客様の人数分の荷重

お客様が同時にジャンプするなどは、設定外で使用不可とするのが得策

◇防音・防振・吸音

生演奏による音楽、大きな音を出す演目など、他の階へ影響を与えるような演目を行う場合、対策が必要。
※カラオケによる歌唱でも、対策を行わないとクレームが出る可能性がある。

◇室内環境

空調機器騒音、外部(道路)からの騒音(防音対策を行う場合は別) などにより、静かな、講演、セミナーなどは大きな影響を受ける。
(空調機は、容積が大きな空間では、風切音、モーター音などに注意が必要。)
音楽ライブでも、ピアノシモの部分での影響は大きいので、多くな音を出すイメージのライブハウスでも、考慮している場合が多い。
一般的に NC値で表記する。

◇動線

ホールへ来られたお客様と、出演される方が交わらないような動線計画が必要となる。
(ホールの使い方に影響を与える。)
(外部から、ホールへ来られるVIPの動線など重要)

◇出演者控え室

想定演目により、室数、広さ、トイレ、シャワーなど適宜設定する。
出演者控え室から、お客様に出会わずにステージに行ける動線が必要。
大型ドライバー(複数台)に対応する電気設備が必要。

◇電気設備

演出用 音響、照明に使用するため、大容量を確保する必要がある。
ノイズ対策(おもにインバータノイズ)のために、専用電源であることが望ましい。

◇映像設備

ホールの内容を収録配信するための設備で、今後重要視されるため、ぜひ設置したい。
エントランスへの配信や、全国、全世界への施設への配信も視野に入れる。
双方向も検討する。

以上